



「できた！」

No. 1 3

文責 校長 木下和敏

「平和な世界を願う」…平和祈念集会を行いました

8月9日。平和公園では平和祈念式典が開催され、11時2分の黙とう後には「長崎市平和宣言」が読み上げられる予定になっています。本校においても、原子爆弾が二度と使用されることがない平和な世界の実現に向けた思いを子どもたち一人一人に高めるよう平和祈念集会を開催しました。集会の中では5年生の子どもたちが総合的な学習の時間で調査・研究して学んだことを発表したり、各学級で考えた平和への思いを込めた言葉を発表したりしました。是非、ご家庭でも、「身近な平和」についてお話しください。

【平和祈念集会 校長講話（一部抜粋）】

第二次世界大戦といわれる大きな戦争が終わって、77年が過ぎますが、その間も、世界のいたるところで、戦争は起こっています。今も毎日のようにテレビの画面にウクライナでの戦争の様子が映ります。それは決して映画でも、ゲームでもありません。事実であり、多くの人の命が失われている瞬間だということを、私たちは知らなければなりません。失われた尊い命とその人の未来は決して戻ることではないのです。世界中の人が、共通して平和を願う中でも、争いは起こり続けている事実を知ることが大切です。

みなさんに質問します。

なぜ、戦争は起こるのでしょうか？

戦争が起こらないようにするためにはどうすればよいのでしょうか？

戦争は、国と国との争い事であり、身近な言葉で言えばケンカと言えるのかもしれませんが。みなさんの身の回りでも、時には、ロゲンカなどが起こるのではないのでしょうか？そうした時、どうしたら、ケンカにならずに済むと思いますか？

大切なことは、自分が伝えたいことをわかりやすく相手に話をする事、相手が言いたいことをしっかりと聞くこと、そしてお互いに理解できることは譲り合うこと・認め合うことだと思います。時には最後まで意見が合わないこともあるかもしれませんが。でも、私たちが生きていくうえで正解が一つとは限りません。たくさんの正解があってもよいのです。いろいろな正解を知ることが平和を願う心の成長につながると思います。

今日は、この後、5年生の調査・研究の発表、各学級の平和を願う言葉の発表があります。長崎で育つ人として、長崎を最後の被爆都市にできるよう、世界から人々の争い事がなくなるよう願いを込める一日にしましょう。

第二次世界大戦のときに日本で唯一の地上での戦いが行われたのが沖縄県です。毎年、6月23日に沖縄全戦没者追悼式が開催され、平和の詩が読み上げられます。最後に今年の追悼式で読まれた詩を読んで、私の話を終わります。

こわいをして、へいわがわかった

沖縄市立山内小学校2年 徳元穂菜

びじゅつかんへお出かけ

おじいちゃんや おばあちゃんも いっしょに

みんなでお出かけ うれしいな

こわくてかなしい絵だった

たくさんの人がしんでいた

小さな赤ちゃんや、おかあさん

風ぐるまや チョウチョの絵もあったけど

とてもかなしい絵だった

おかあさんが、七十七年前のおきなわの絵だと言った

ほんとうにあったことなのだ

たくさんの人たちがしんでいて ガイコツもあった

わたしとおなじ年の子どもが かなしそうに見ている

こわいよ かなしいよ かわいそうだよ

せんそうのはんたいはなに？

へいわ？ へいわってなに？

きゅうにこわくなって おかあさんにくっついた

あたたかくてほっとした

これがへいわなのかな

おねえちゃんとけんかした

おかあさんは、二人の話を聞いてくれた

そして仲なおり

これがへいわなのかな

せんそうがこわいから へいわをつかみたい

ずっとポケットにいれてもっておく

ぜったいおとさないように

なくさないように わすれないように

こわいをして、へいわがわかった